

ちよつといひ話

～ 思いやる心 ～

如のてつが、味て世れはと吉安等が様る。その教れを自つをり説て。前体になるよ
 のれし八が、をき末そ事たに平侶針の語判す、るをら生の守縁よのつすの身讃はき
 盲う汚対はです。せ生劫、なつ代は僧指ど物くでななさめ人今を血に佛なま壇が事、
 てろはにで幸が万の切ま時師、の又が良のかに切求で。統に果はにけ仏き法て礼
 見（中言教のに達）も大始良大し活、跡はなす要大にうす血手善々満頂お着土っ敬
 に聾の発佛共私たるのら奈法設生に事事しま必の々よでの勝因我円が、ち浄も。
 眼て世の等來は。かな育かは弘創で処のの通りがけ我ちのそて善た徳益で落のをす
 「いの偽見は間ん（と教化進、を庭何そ人見なルが、持もがし、け福利族に師心ま
 は聞此虚正人せ方針。文前し）家をは他おにブ心今のい祖に果受もご家心大のり
 とに程、理解。まの指す教の立んの学生、てのイも。心た先別悪を孫、もば導悲あ
 道耳れり思のす來此活で佛屋創いれ美一々全もバ経す、しのは因生子ててれ善慈と
 る、そあ正葉で出り生のは子をちぞのの非はなのおまびと々し悪にもにくす。よ）
 きく。が。言のかよのな育寺院ゆれ焉人々事何為のい運学累悪は）分事なさす佛い
 生如す心す。言のいな昔で経教。教しそ終、是の如るどての美、し命い自る少。まみさ
 てのま真です。かか、まおのん二い。か。々はす。し心の等良生がばすらすれ、下
 て（）りとのまちながるな本せがげすがうす我生をすと。）母の。うれ誦かでははて
 捨しお心むいにがす至大日ま）ゆですよで然一動で）すん父運すよす誦す高たくし
 とおて妄して能すでに膨、りびしのでしの当の行のめでえ祖。でき養はで最もわ念り。
 り（っは悲れ可で変）るがあき（た事でも分いななりう、すの（修経切ばが願護な
 ら唾言にはか不のせすすはま院しののン様自良経かやゆ母まな涯てお大れ栄（をみ
 がては心心説はう住つとででの智を然るヨ佛るもお（いし父り罪境っ。がき繁念々の
 をいで。真がと思常まめじ言び種強当えシが写て、要思（は因大の従す続でに護我る
 が説禪。真がと思常まめじ言び種強当えシが写て、要思（は因大の従す続でに護我る
 俺にとで喜いるい則ごをもも（綜ののてイま鏡ら即養の終る事殺人法のは参が心よ）
 が口」のはしすた法ん経昔て備に典るいフいの見。修る、あた自がたるとお氣慈くい
 俺、くる心正行いくま心もつ真期経な描ン言葉です、いえがきつすれけ育て佛佛遠ら
 く如い妄の実わい（が今言備初が異にノと佛こでえて変分て絶まか行教にに願かう

善入院油掛地藏尊